源 流

第２５号　　教育長　　儘田　文雄

器（うつわ）

「器」とは、いれもののこと。本号で取り上げるは、**「人間の器」**、つまり**人物の大きさ、スケール**です。

歳を重ね、経験を積むにつれ、自らの器を広げたいと願うのが一般でしょう。しかし、改めてそのために必要なことについて問われると、答えに窮してしまいがちです。

私は、ともすると自分の器から**「こぼれがちなもの」**に思いを巡らすことで、解決の糸口を探りました。

「こぼれがちなもの」。例えば、**自分さえよければよい、というわがままな心。怒りやあせり、嫉妬など衝動的な感情。小言や愚痴、人のうわさ話や中傷**、等々です。

こうしたものが、自分の器からこぼれないようにするためには、主に次の二つのことによって器を広げることが必要であると考えます。

一つは、**自分中心の「利己」から、相手の利益や幸福を重んじる「利他」への転換**。もう一つは、**他からの指示や命令によって行動する「他律」から、自分で決めたきまりに従って物事を行う「自律」への転換**です。

いずれも、「言うは易し、行うは難し」です。しかしながら、私たちがよりよく生きるには欠かすことのできない事項であると考えます。

情報発信としての「報・連・相」

文筆家、クリエイティブディレクター　松浦弥太郎

独立した一人一人が、決して依存し合わないけれど、協力しながら、同じ方向に進んでいく。たいていの仕事はチームであり、チームはこんなふうに動いていきます。まわりの人と忘れずに情報共有しましょう。「あれはどうなってるんだろう？」と不安にさせる前に報告し、「何なんだろう？」と誰かを置いてきぼりにしないように連絡し、「大丈夫かな？」と心配させる前に相談しましょう。「報・連・相」も立派な情報発信です。

出典：「しごとのきほん　くらしのきほん　１００」（マガジンハウス）

※　こまめな「報・連・相」が、三つの「？」をなくす。肝に銘じたい言葉です。